

真壁地区

(茨城県桜川市)

- 計画期間 平成16年度～平成20年度
- 面積 195ha
- 交付対象事業費 798.4百万円
- 市人口 46,731人 (地区内人口4,355人)

ポイント

歴史的資源の保存・活用と、交流人口の拡大による「歓交地」を目指したまちづくり

地区概要

来訪者との交流を促進するため、景観に配慮した駐車場・公衆トイレ等便利施設の整備や、散歩しやすい道路の整備、電線類地中化等を実施するとともに、市民主体による登録文化財の利活用を図り街中の活性化を図る。

目標

歴史的たたずまいを継承した街並み・まちづくり

- ①歴史的資源の保存・活用によるまちづくりの推進
- ②交流人口の拡大による地域振興―「歓交地」を目指したまちづくり

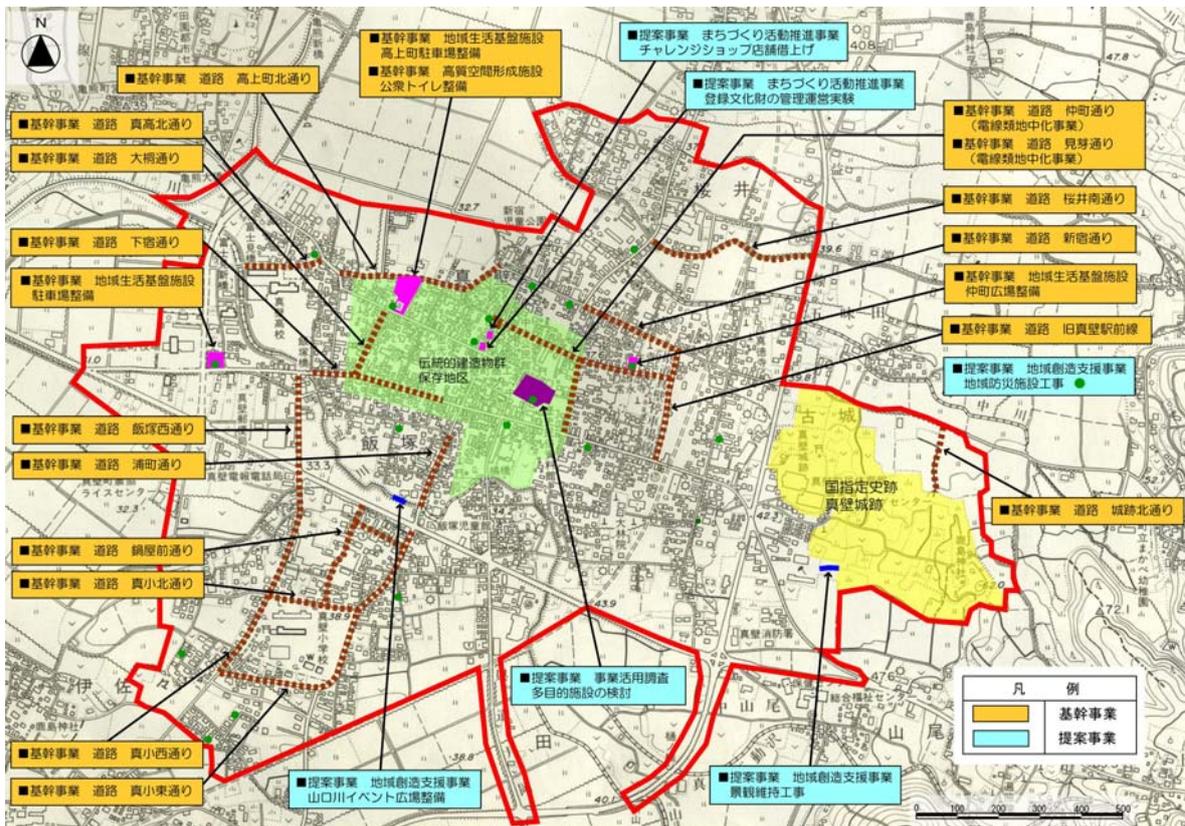
指標

地区内は拠点施設となる既存施設が複数あり、交流人口の拡大という点から、これらの来訪者数を指標値にするとともに、地区全体の来訪者数を指標値とした。

来訪者数	70,000人 (H16)	→	132,439人 (H20)
旧郵便局展示回数	4回 (H16)	→	10回 (H20)
旧郵便局来場者数	5,000人 (H16)	→	110,000人 (H20)
イベント等の回数	4回 (H16)	→	10回 (H20)
小学生の安全度意識調査 (危険と感じる割合)	74.1% (H16)	→	30.8% (H20)
真壁城跡見学者数	2,000人 (H16)	→	5,312人 (H20)

事業内容

- 基幹事業 (710.9百万円) → 道路 (幅員 2.4~6.0m、延長 4,862m)、広場 (1カ所、600㎡)、駐車場 (2カ所 4,368㎡、160台)、案内板 (8カ所)、トイレ (1カ所、60㎡)
- 提案事業 (87.5百万円) → 地域創造支援事業 (景観維持工事 (58m)、河川イベント広場 (40m)、地域防災施設工事 (22カ所))、事業活用調査 (多目的施設の検討)、まちづくり活動推進事業 (講師派遣、パンフレット作成、登録文化財の管理運営実験、チャレンジショップ店舗借り上げ)



地区の現況と課題

- 真壁のひなまつり等のイベントへの来訪者が急激に増えたものの、公共交通機関がないため自家用車利用者への駐車場の整備が求められていた。
- 来訪者が増えることによって街並み散策の際の歩行者優先の道づくり、さらには通学する児童の安全確保が求められていた。
- 歴史的建造物の保存活用について、住民が主体的に活動できる仕組みづくりが求められていた。また、修理・修景・防災等については行政の支援が要請されていた。

提案事業の特徴

- 河川イベント広場
「真壁のひなまつり」最終日に行われる流し雛の開催場所として定着しており、開催当日には多くの観光客が訪れている。
- 多目的施設の検討
歴史的景観やまちづくりに配慮した施設整備を念頭に、住民ワークショップ等を開催し、今後の活用方策について調査・検討を行い、その後「真壁伝承館」が整備された。
- 登録文化財の管理運営実験、チャレンジショップ店舗借り上げ
まちづくり団体が登録文化財である「旧真壁郵便局」をインフォメーション施設としての管理運営実験や空き家、空き店舗を借り上げ、チャレンジショップとしての利活用を図った。

まちづくりの効果、持続的取り組み

歴史的街並みの保存活用や「真壁のひなまつり」に代表されるイベント、歴史的景観に配慮した都市基盤整備など、長年にわたる官民協働のまちづくりの取組みにより、第15回地域づくり総務大臣表彰を受賞し、平成22年6月には真壁地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定されることとなった。その後、東日本大震災により歴史的建造物の多くが被害を受け、真壁地区を会場とする「真壁のひなまつり」の開催も危ぶまれていたが、地域住民の意向により開催することができ、多くの来訪者で賑わった。現在は、震災前同様、歴史的街並みを活かしたまちづくりを進めるべく、歴史的建造物の修理修景に取り組んでいる。

中田裕市長のコメント

桜川市真壁地区では、市町村合併前の市民主体による歴史的街並みの保存活用の取組みを発端に、「真壁のひなまつり」など市民主体のまちづくりの取組とともに、行政による後方支援や基盤整備など官民協働のまちづくりに取り組んできました。東日本大震災では歴史的建造物の多くが被害を受けましたが、今回の受賞を励みに、より一層の地域の魅力づくり・復興に努めて参ります。

ひなまつり実行委員会会長 西岡延廣氏のコメント

「寒い中、真壁にきた人をもてなそう」と住民有志の手によりはじまった真壁のひなまつりは、毎年2/4~3/3の期間中に10万人を超える来訪者で賑わっています。そのようななか、来訪者が多くなったことによる駐車場やトイレの問題、歴史的街並み景観の向上が課題となっていました。高上町駐車場やトイレの整備、電線地中化により諸問題が大分改善されてきました。また、東日本大震災により多くの歴史的建造物が被害を受け、ひなまつりの開催も危ぶまれていましたが、地域住民の皆さんの心意気により開催でき、多くの真壁ファンの方々にお越しいただけたことは大変喜ばしいことでした。今後も地域活性化のため頑張っていきたいと思えます。

真壁八七咲き社中(元まちづくり真壁)代表 川嶋利弘氏のコメント

町のシンボリック存在だった旧真壁郵便局。ここを開放することは多くの市民の願いでした。また、町並み見学者からも旧真壁郵便局の中を見たいとの声がかかれ、何とか開きたいという思いが強くなりました。このような中、市民を中心に「まちづくり真壁」が誕生し、まち交の支援を受けながら旧真壁郵便局を開設・運営できたことはとても嬉しい出来事となりました。以後、旧真壁郵便局は情報発信や会議、セミナー、作業場としても多くの市民に使われるようになり、真壁のまちづくりの拠点となっています。旧郵便局は他の歴史的建造物と同様に、東日本大震災による被害を受け現在修理中となっていますが、真壁のシンボルとして再開するのを楽しみにしています。



▲景観に配慮したトイレ・駐車場整備



▲登録文化財の管理運営事業(旧真壁郵便局)



▲電線類地中化・道路整備事業
(重要伝統的建造物群保存地区内)



▲河川イベント広場(真壁のひなまつり・流し雛)